

小さい子 一緒でも気兼ねなく

親子カフェ 松本に登場



店内には大型の遊具や乳幼児向けのコーナーなどがあり、子どもたちの元気な声が響く＝松本市

店長・小林さん「オアシスつくりたい」

丸ごと一軒が親子の楽しみみの場に。大型遊具で子どもを遊ばせながら、親が食事や仲間との会話を始める「親子カフェ」が、松本市に登場した。県内でも育児コーナーを備えた「子連れ歓迎」の飲食店が少しずつ増えているが、店全体を子連れの母親に使いやすく設計した本格的な親子カフェは、まだ少ない。気兼ねなくくつろげる場所として人気を集めている。

十二月中旬の平日午後、「おさんぽカフェ」（松本市高宮南）では、子どもたちが自動車形の滑り台やボールプールで夢中になって遊んでいた。母親たちは、子どもと一緒に遊んだり、ベビーカーを座席の横に置いて友人とおしゃべりを楽しんだり…。長男の冬弥君（4）、母親さき子さん（60）と訪れた同市の戸田綾子さん（32）は二度目の利用。「ゆっくりお茶を飲めるのがうれしい。普通の喫茶店では子どもが騒ぎ始めると周りに悪い気がして」。塩尻市の古既由紀子さん（31）は、長女ひよりちゃん（1）と生後二カ月の楓ちゃんを連れ、初めて訪れた。友人たちと二時間半ほど過ごし、「次女が生まれてから上の子を外に連れ出せなかった。今日はストレスを発散できたみたい」と喜んだ。

地元食材メニュー

店長の小林淳一さん（36）＝東筑摩郡山形村＝は「普通の店では迷惑がられてしまう人たちのオアシスをつくりたかった」と話す。十一月の開店以来、昼時は約五十席がほぼ埋まる人気ぶりだ。

二階建て延べ二百平方メートルの店舗。一階中央に広い遊び場を設け、遊具やおもちゃ、絵本を置

遊ばせながら ゆっくりお茶も



親子カフェを開店した小林淳一さん（中央）。休日には、子守を任されたお父さんの姿もあります

いた。乳幼児が安全に遊べる囲いがあるスペース、授乳やおむつ交換用の部屋もある。二階はグループ向けの個室だ。食事のメニューは「信州牛とたっぷり玉ねぎのコトコト煮込みカレー」など、地元食材にこだわった。子ども向けビュッフェにはみそパンや豆腐入りドーナツなど素材なおやつが並ぶ。遊び場と子ども用ドリンクバー利用で一時間四百五十円（会員三百円）、以降三十分ごとに百五十円（同百円）と料金設定した。「受け入れられるか不安もあった」が、開店一カ月で会員登録者は約五百人に。「想像以上にニーズが大きかった。五回、六回と来てくれるお客さん多い」と言う。

「一緒に店づくりを」親子カフェは三、四年前から

関東地方や大阪、愛知など都市部を中心に広がり始めた。「スキップキッズ」（東京都）は二〇〇四年、東京都内に一店舗をオープン。現在は、千葉県などで六店舗を営業する。

同社は「今のお母さんたちは、子どもがいても外で友達と食事をして、リラクセスしたいと望んでいる人が多い」と分析。子どもが巻き込まれる事件が増え、外よりも室内で遊ばせた方が安全と考える親が増えたことも需要につながっているとみる。

小林さんは三月まで十三年間、県内の金融機関に勤めた。「いつか独立して商売をしたい」と思っていたところ、友人から「外国には親子向けカフェがあるのに、日本には少なくて行く場所に困る」と聞いた。専門学校でカフェ経営を学び、新たな道へと踏み出した。

店内でフリーマーケットやベビーマッサージなどの催しや講習会を開く計画もある。小林さんは「お客さんから催しの提案があれば場所を提供する」というように、一緒に店づくりをしていければいいですね」と話している。

おさんぽカフェの連絡先は ☎ 0263・50・9099。

子育て